

熊本地震から学ぶまちづくり

～ICT技術を用いた決め細やかな物資支援～

【様式8】(グループ名簿)

リーダーへの連絡 午前 時 分 午後

グループ名簿

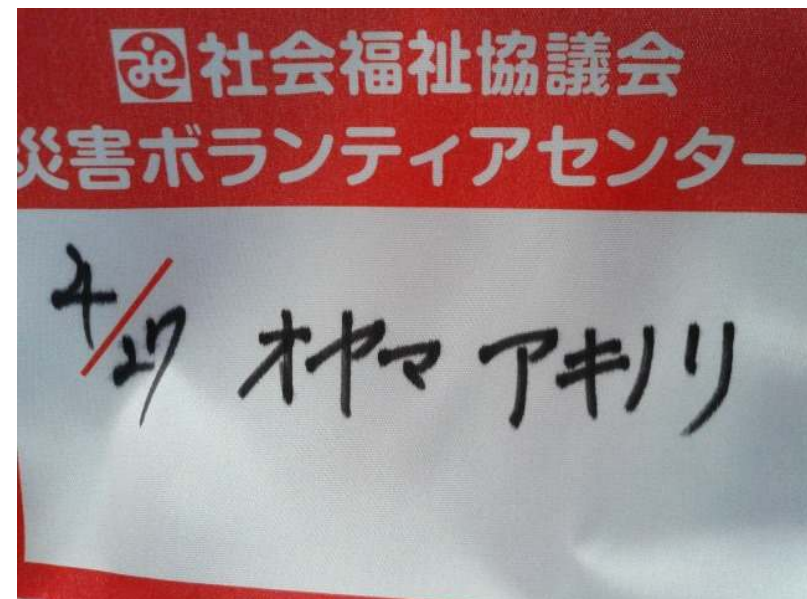
ニーズ票No.

※貸出車両()

グループ(オヤマ アキリ)

活動日時: 平成27年 9月 26日 10時00分～ 対象者氏名()

No.	車	氏名 ※カタカナで記入	No.	車	氏名 ※カタカナ
1	リーダー	オヤマ アキリ			
	サブリーダー				



現状

解決案

2016年4月14日(余震)、17日(本震)の2度に渡る大地震が発生

熊本地震(くまもとじしん)は、2016年(平成28年)4月14日21時26分(日本標準時^[注釈 1])以降に熊本県と大分県で相次いで発生している地震である。

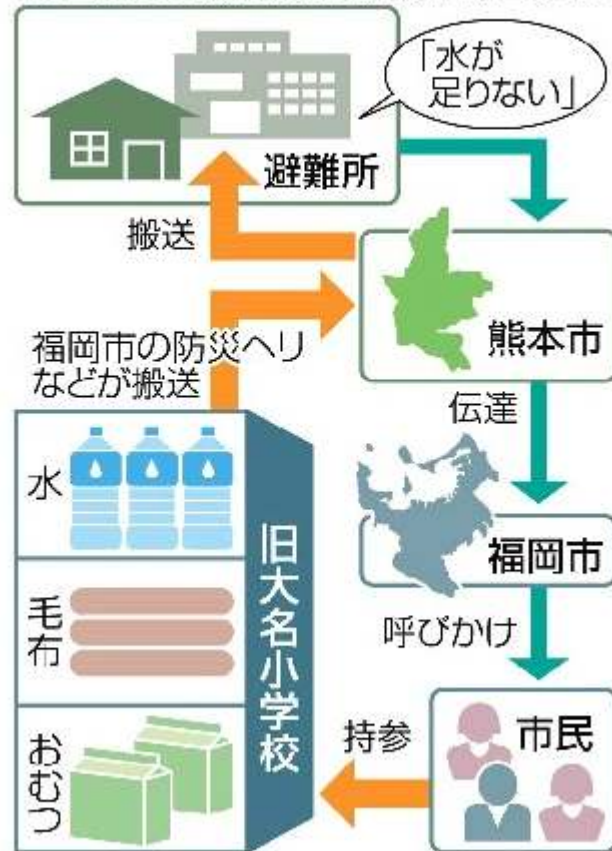


(出所)<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%86%8A%>.

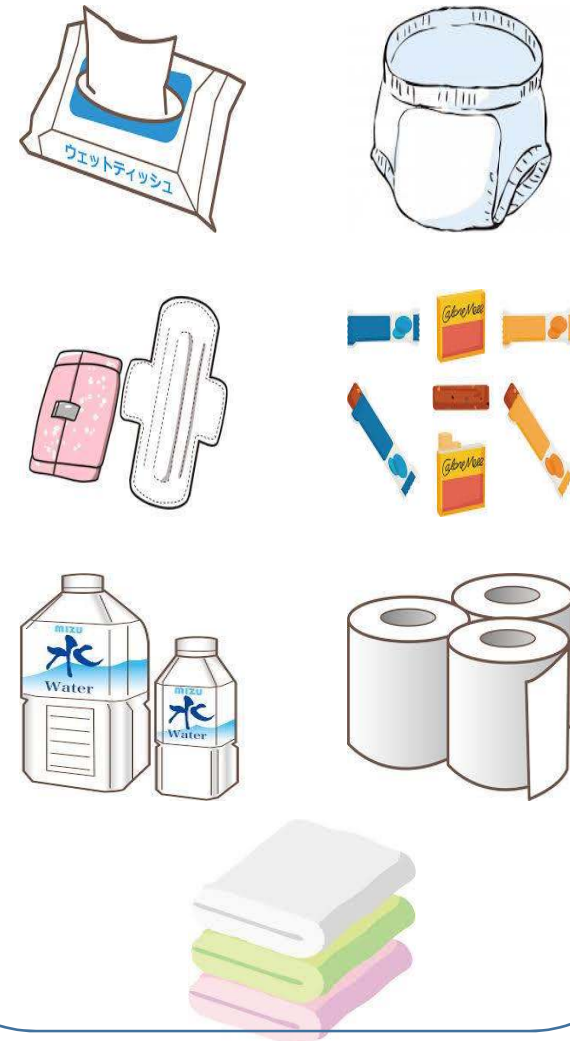
特に、福岡市は必要な7品目に限定するなど、分かりやすい支援を行った

ウエットティッシュ、栄養補助食品、ペットボトル、トイレトペーパー、おむつ、タオル、生理用品

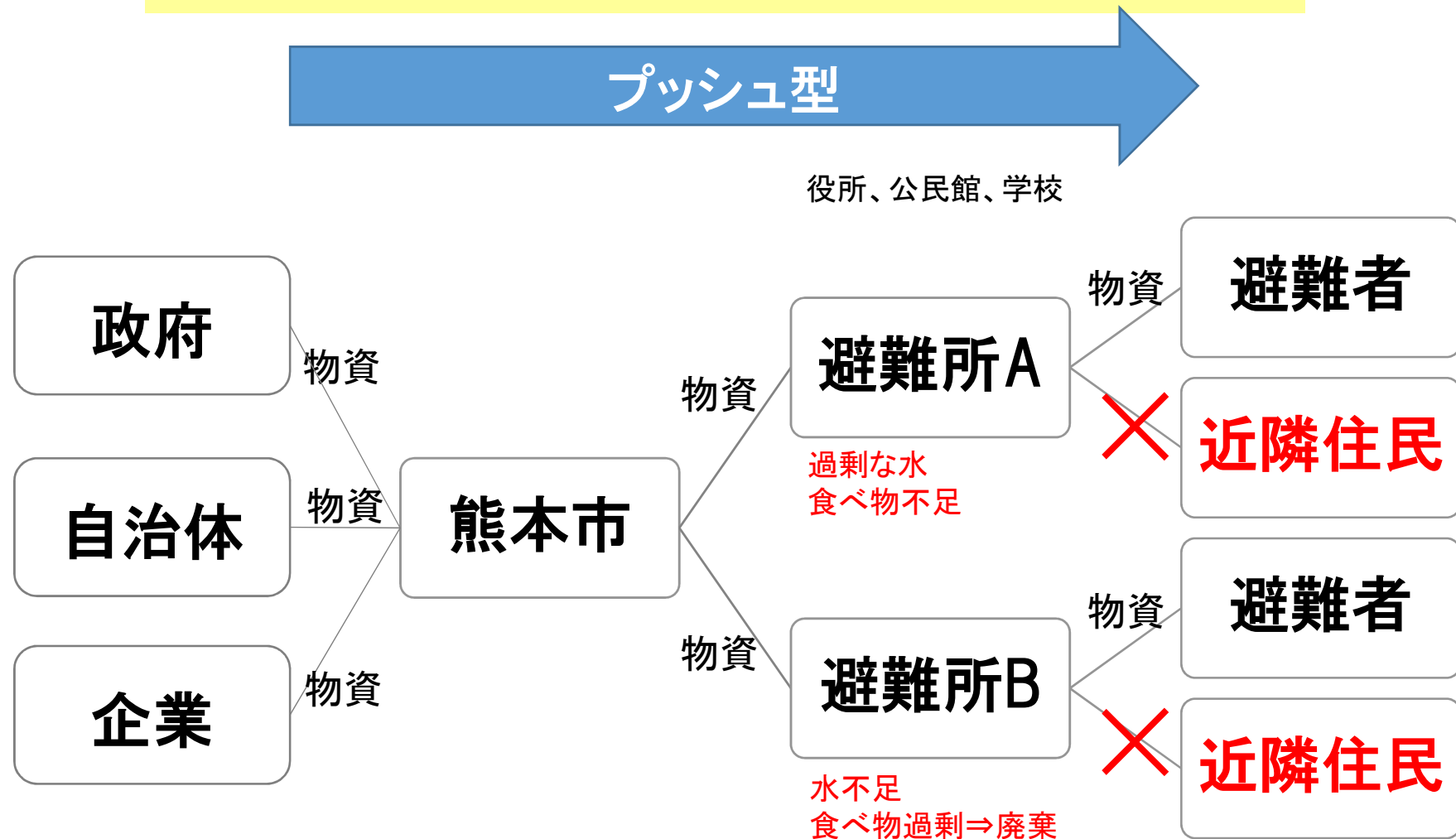
被災地の要望に応じた
福岡市の救援物資集配の仕組み



支援物資7品目



今回取られたプッシュ型支援では**近隣住民**へ物資が届かない
例) 動けない高齢者、ペット、車駐泊



原因①:業務経験のない自治体職員では、在庫管理ができなかったこと

原因②:被災者に関する正確な情報が把握できず、目先の避難者対応に追われた



熊本市役所内の救援物資

外部からの物資搬入



物資を山積み



在庫管理ができない



必要な時に対応できない

現状

解決案

物資支援向上案

プッシュ&プル型の決め細やかな対応

理由は様々だが、避難所に入れない人は多い

プライベートがない



ペットと離れられない



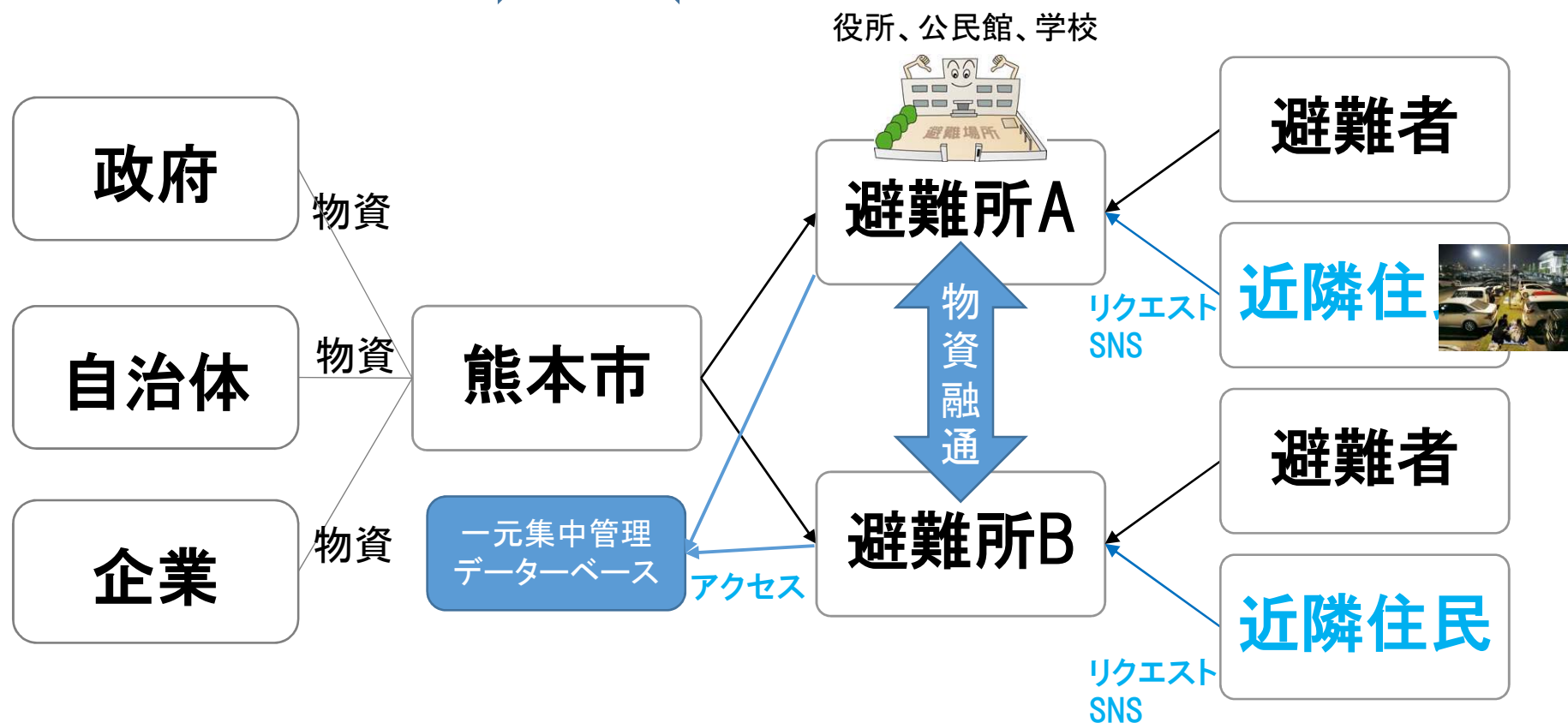
動けない



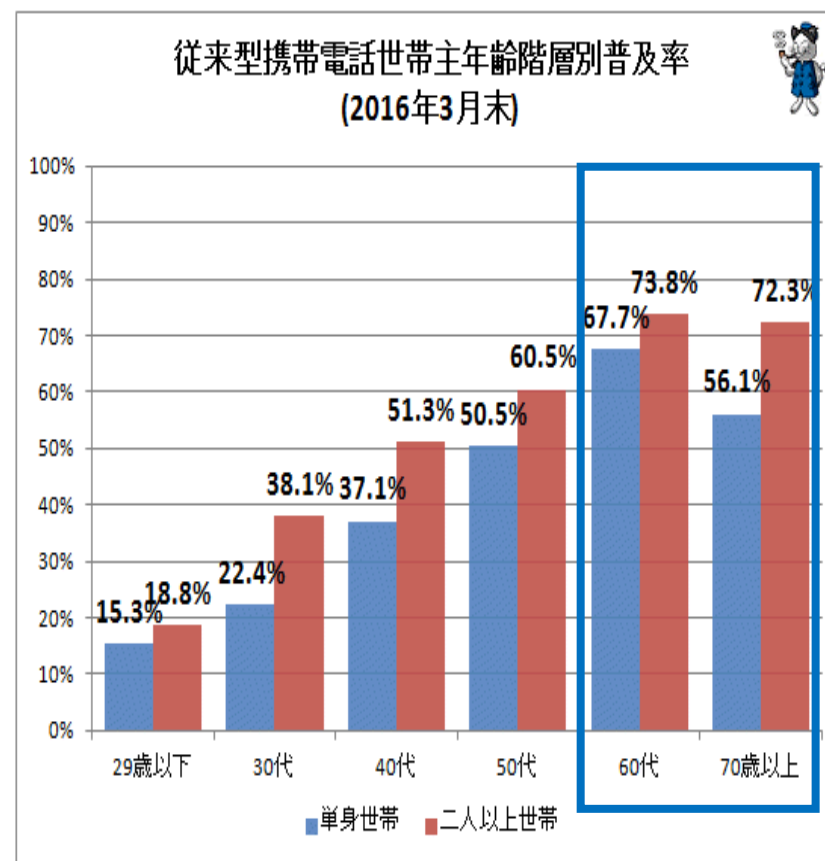
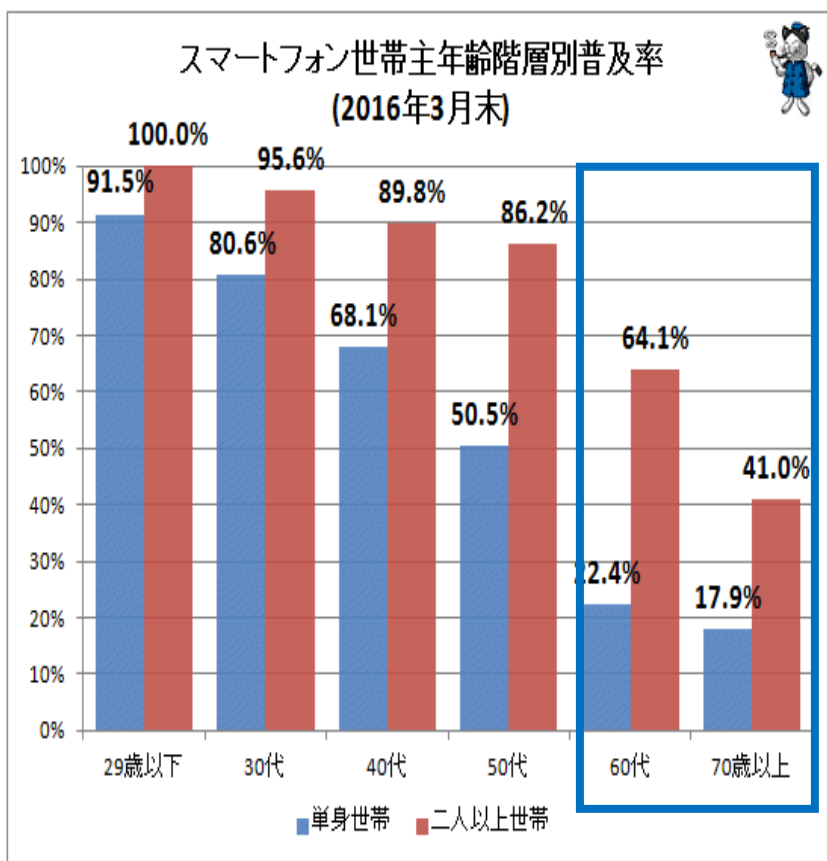
プッシュ&プル型物資支援

夢アイデア交流会2016

プッシュ型だけの問題点を解決するため
SNSや独自アプリでプッシュ&プル型物資支援

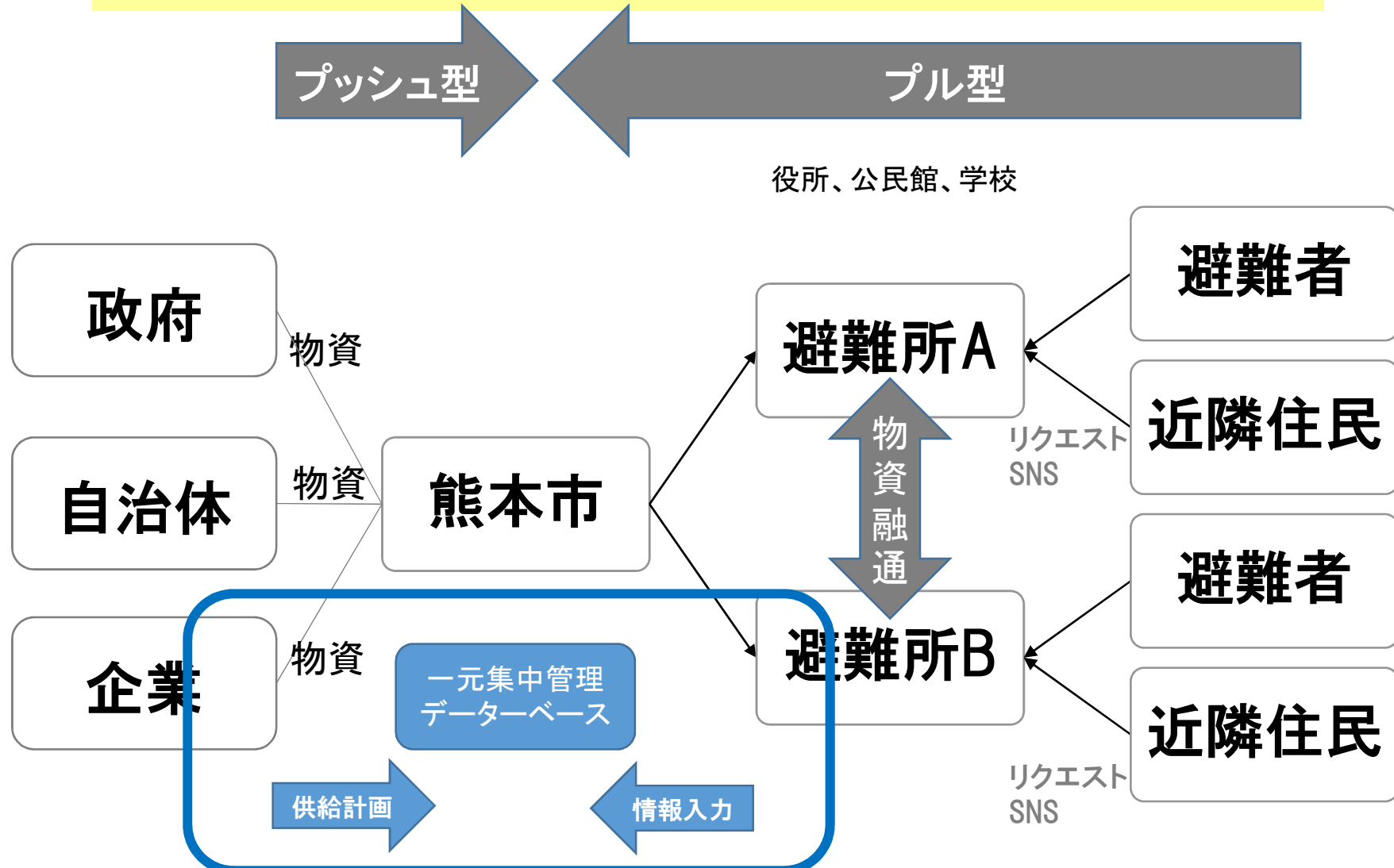


高齢者のスマホや携帯の普及率は年々高まっている



(出所): <http://www.garbage news.net/archives/2157553.html>

- 1. 外部から**情報アクセス**ができ、追加要求(不足)や在庫削減(余剰)
- 2. データをベースにした供給計画が策定可能





熊本市 災害ボランティアを通じて思ったこと

役所や学校、公民館などの避難所の運営は行政職員を中心に不眠不休で行われた。

一方で、未経験分野であるため、ノウハウはなく、特に、避難所へ入ってない方への物資供給には問題を感じた。

そのため、SNSなどを使った情報の“見える化“を行うことは、熊本地震での経験を活かし、今後可能性がある大災害に対して必要不可欠です。

**～予想できない大災害に対して仕組みを作ること
これが私の提案する安全安心なまちづくりです～**